

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 11 章 1~4 節 >
二週かけて、「主の祈り」を通して祈りについて学びます。

1 (1a) イエス様はよく祈られていた → 祈ることは大事!

祈ることは信仰者にとって大事です。それはイエス様がよく祈られていたことから推測できます(3:12, 5:16, 6:12, 9:18, 22:41)。

2 (1b) 弟子たちが教えを請うた → 祈りは学んで初めて分かるもの。

ここで弟子たちはイエス様に「祈りを教えてください」とお願いしています。つまり祈りはイエス様から学んで初めて分かるものなのです。

3 (2a) 信頼してその方に向かって祈ることができるお方を持つ恵み。

イエス様はまず「父よ」と呼び掛けなさいと教えられました。もちろんそれは神様に対してですが、考えてみると、祈りはそれに向かって祈る対象(神)が必要であり、それに対する信頼と確信があつて初めて力を入れてできる行為でしょう。新年を迎えて、「今年も健康でありますように」と誰に対してか分からないまま、なんとなく祈る「祈り」とは違うのです。実は、イスラエル人も神様のことを「父よ」と呼びかけることはしませんでした。畏れ多かつたからです。しかしイエス様は幼子が「お父ちゃん」と呼びかける時の言葉「アッバ」を使って神様に向かって「アッバ、父よ」(マルコ 14:36)と祈られたのです。そのイエス様が私たちに、「父よ、と呼び掛けて神様に祈りなさい」と教えて下さった事の意味は大きいのです(ローマ 8:15 私たちも「アッバ、父よ」と)。

4 (2b, 2c) 自分の願いを聞いてもらうために祈るのではない祈り。

「御名が崇められますように」の「御名」はその名を持つ方を強調する表現です。つまり、ここで教えられている祈りは、自分が願うことばかり考える「祈り」とは違い、まず向かって祈るお方である神様のことを思うことから始める行為なのです。そうするなら、「神様の御支配の中に自分は置かれているのだ」と確信し直せ、必ず祈る人の心が平安になって行くのです。イエス様が次に教えられた「御国が来ますように」は直訳すると「あなたの御支配が来ますように」(「国」の原語バシレイアは「支配」が原意)ですから、まさにそのような意味なのです。つまり、イエス様が教えて下さった祈りは、祈る者が神様に聞いてほしい自分のことばかり考えることから、向かって祈る神様のことを考えるように向きを変えられ、祈る中で「そうだ、私はもうこの恵みの神様の支配の中に置かれているのだ」と導かれて平安になっていく祈りなのです。